

第3章 アプローチカリキュラム

アプローチカリキュラムとして、5歳児9～3月の月ごとに実践する教育・保育内容などについて記載します。

以下に、アプローチカリキュラムを幼稚園・保育所などにおいて実践していくための大切にしたい視点や内容、作成視点についてまとめています。

●アプローチカリキュラムで大切にしたい視点

① これまでの経験を活かし、自信・期待をもたせる。

本手引きにおいて大切にしている自己肯定感や相手などを認め、興味・関心をもってかかわることは、小学校入学によって環境が変わる中でもこれまで身につけた力を発揮するためにとても大切なことです。

そのため、接続期においてはこれまで経験してきたことを発揮して認められ、自信や自己肯定感をもつことができる機会や場が必要になります。

また、それら自分がこれまでに経験してきたことに自信をもつことで、今後の小学校生活への楽しみ・期待をもつことにつながると考えます。

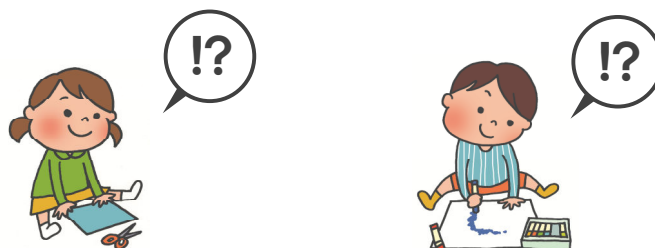
② 協同的な遊び・体験を充実する。

協同的な遊び・体験を充実させることで、クラスの一員としての自分を意識して責任感が育まれたり、一つの目的に向かって友だちと協力しあうことでの達成感を味わったりするなど、小学校入学後の集団生活における学習の土台づくりにつながります。

③ 学びを楽しむ力と学びに向かう力を育む。

接続期は、「学びの芽生え」から「自覚的な学び」につながる大切な時期です。子どもが遊び込める環境の中でも、さまざまなことに興味・関心をもったり、新しい発見をして楽しんだりする中で、知ること・わかることが楽しいと思える機会づくりが大切です。

また、最後まであきらめずに挑戦したり、友だちと折りあいをつけて協同して活動したり、人の話が終わるまで集中してきいたりする力は、「学びに向かう力」と呼ばれています。これらは、小学校で他者と一緒に学ぶためには必要な力であり、遊びや生活を通して育むことが求められています。



●アプローチカリキュラム一覧

[illegible]

5歳児 9・10月

テーマ

みんなで力をあわせて！

友だちと考えを出しあい、体を動かすことで協同性を
培い、やり遂げた時の達成感を味わう。



ねらい

- 友だちと考えを出しあい、協力する楽しさや喜びを味わう。
- 友だちと一緒に体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- 役割の大切さを知り、自分の責任感や、みんなでやり遂げた時の達成感を味わう。
- 自分なりのめあてをもって活動に粘り強く取り組む。

大切にしたい視点

自分も相手も
好きになろう！

大切に
する力

- お互いに認めあうことで、自分を大切にしようとする。
- 友だちの頑張っている姿を認めあったり、励ましあったりする。
- 一生懸命取り組むことの大切さに気づく。
- クラスでの取り組みやグループでの活動を通して、自分や友だちの良さを見つける。

きいて話して
友だちをつくらう！

つながる
力

- みんなで一緒に体を動かして遊び、かかわりを深める。
- 友だちや異年齢児の頑張っている姿を認め、声をかけあったり、励ましあったりする。
- 友だちと話しあいながら、目的を共有するとともに、協同性を高める。
- 運動が得意・不得意な友だちがいることを知り、一緒に楽しむために工夫する。

自分で元気な
生活をつくらう！

元気に生活
する力

- 体を動かすことを楽しみ、全身を使って遊ぶことに心地良さを感じる。
- 元気に体を動かすためには、規則正しい生活が必要なことを知る。
- 自分で自分の体がコントロールできる体力を身につける。
- ルールや約束、時間を守って遊ぶことの大切さを知る。

学びを
楽しもう！

考えてチャレンジ
する力

- 司会や準備などの役割を通して責任感や達成感を味わう。
- 苦手なことも自分なりに取り組もうとする。
- 自分で回数や時間をきめるなど、遊びの中で数字や数量に興味をもつ。

小学校に向けて

- 自分の体調の変化などを言葉で伝えられるようになる。
- 自分で必要な生活習慣がわかり、身につける。
- 床やイスに正しい姿勢で座ったり、順番を意識して並んだりする。

保育者の援助

【ポイント1】

**みんなで体を動かして
楽しめるようにする**

- 個々の頑張りを認め、喜びを共感する。
- 体を動かす楽しみが感じられるように、保育者も一緒に体を動かして遊ぶ。
- 子どもと遊びを考えながら、さまざまな運動遊びに取り組めるようにする。
- 元気に体を動かして遊ぶためには、規則正しい生活が必要であることを知らせていく。

【ポイント2】

**めあてを達成することで
自信につながるようにする**

- 一人ひとりの良さを見つけ、それが発揮できるように動きやグループを工夫する。
- 子どもの頑張る姿や教えあう姿を認め、励ましながら、かわりが深まるようにする。
- めあてに向かって取り組む姿を認め、自信につなげる。
- 役割をもつことで、主体的に活動できるようにする。

【ポイント3】

**みんなで力をあわせて遊ぶことの
楽しさ・充実感を味わえるようにする**

- 友だちと一つのことに一緒に取り組むことで、友だちとの関係を深めていく。
- 一人ではできないことも力をあわせればできることの楽しさが感じられるようにする。
- みんなで話しあい、うまくいった時の喜びが味わえるようにする。
- グループや全体で話しあう時間を大切にする。

環境づくり

運動サーキット

さまざまな運動遊具にふれられるよう、保育者が協力しあって設定していく。子どもが自分で遊びを見つけられるように、さまざまな種類の遊具を用意する。

一人ひとりのめあて探し

一人ひとりが達成できるめあてをもてるように、遊具や遊び内容を工夫する。協同した遊びの場合は、みんなが共通の目標をもてるように工夫する。

互いの頑張りが見える

遊びの中で、互いに見たり、見られたりする機会をもち、子どもそれぞれが頑張りを、励ましあい、評価しあえる環境をつくる。

接続期の工夫

家庭・地域	● 休息・睡眠を十分とること、朝食をしっかり食べることの大切さを理解してもらう。 ● 規則正しい生活（早寝・早起き・朝しっかり食べる）など、体を動かして遊ぶために、家での生活に協力を求める。 ● 掲示板や配布物で生活習慣の大切さなどを広く知らせる。
幼稚園・保育所など	● 他の幼稚園・保育所と活動内容などの共有をはかれるように、情報交換や見学などを行う。
小学校	● 小学校の運動会の子ども競技への参加を呼びかける。 ● 小学校の運動会や練習の様子を見学する。

運動会のダンスがっこいいなあー

園(所)の子どもと小学生が交代して運動会のダンスを互いに見せあう。その後感じたことを話しあう。

ねらい

小学生のダンスにあこがれの気持ちを持ち、互いの頑張っているところを気づいていくようにする。小学生でも自分の思いを言葉で伝え、話す力やきく力を養う。

子どもの姿・活動内容

保育者のかかわり

準備

- 互いに紹介をして、運動会のダンスを見せあう準備をする。
- 小学生のダンスが見やすいところに行く。

ポイント
①

- 小学生のダンスを見て、拍手したり、「すごい」と自分の気持ちを表現したりする。
- 小学生は園(所)の子どもに見せたい気持ちでダンスをする。

ポイント
②

- 小学生に見てもらおうと、力をあわせてダンスをする。
- 小学生は園(所)の子どもの頑張っている姿を見る。

ポイント
③

- 互いのダンスを見て感じたことを言葉で伝える。
- 友だちの話をきいて、同じ意見であることを話す。

- 互いのダンスをしている姿を認めあっている。
- 年齢の異なる中でも自分の思いを伝えるようになってきている。

- 小学校で友だちと一緒に力をあわせてダンスをし、互いに見せあうことを確認する。
- 保育者も園(所)の子どもと一緒に、小学生のダンスを見る。

- 子どもと一緒に共感する。
- 小学生の頑張っている姿を応援する。

- 園(所)の子どもが頑張ってダンスをしていることを認める。
- 小学生が見ていることを知らせる。

- 子どもと同じ意見を共感する。
- 自分の思いを言葉で話せるようにする。

- 小学生のダンスを良く見て、感動している姿をともに共感する。
- 自分の思いを小学生の前でも言葉で伝えるように促す。
- みんなの前で話せたことを認め、自信につなげていく。

実践

振り返り



ポイント①

- 小学生のダンスを直接見ることで、自分たちがしているダンスの表現と異なった小学生のダンスの表現に感動し、小学生へのあこがれの気持ちにつながる。
- 小学校の施設を利用することで、小学校へ入学した時の環境に親しむことができる。
- 運動会という行事のもとで見せあいをするのが、思いをともにすることにつながる。

ポイント②

- 自分たちのダンスと小学生のダンスの見せあいをするので、よりいっそう友だちと一緒に力をあわせて取り組み、チャレンジする気持ちにつながる。
- 他の競技への取り組みにもチャレンジすることを促すことになる。

ポイント③

- 生活している園(所)と異なり、小学校の施設で自分の思いを話すようにすることで、話す力や友だちの話をきく力を身につけるようになる。
- 小学生と一緒にいることで、小学生の話し方やきく態度なども知る機会になる。

評価・反省

互いに見せあった後、感想を話す時間が少なかったように思う。互いの思いを話したりきいたりする保育者側の配慮がもう少しいる。

小学校の施設を利用することで、子どもたちが小学校に入学後、親しみをもつことができると思う。

運動会という行事の中で互いの取り組みを見せあうことで、身近にあこがれの気持ちをもつようになったと思う。

コメント

小学生のダンスを見ることで、自分たちのダンスをどうするかを考える機会となるので、小学生とかかわることは子どもたちのあこがれの気持ちをもったり、友だちと一緒に自分たちで考えていくことになると思う。

事例②

大切にしたい視点

自分も相手も好きになろう！

きいて話して友だちをつくろう！

作品展でのグループ発表！

作品展の『縁日』で出すお店をグループで考え、自分のしたいこと、つくりたいものを発表する。話をしっかりきいて人の意見を尊重する。

ねらい

自分のしたいことや、イメージをみんなにわかるように、話をする。人の意見を理解したり、尊重する。

子どもの姿・活動内容

- 話し方のルールやきき方のルールを理解する。
 - 自分のしたいお店のイメージをスケッチブックにかく。
 - 材料の種類を知る。
- ポイント①
- グループをつくる。友だちを誘う。
 - グループに入ろうと自分で積極的に仲間を探す。
 - グループがきまったら、つくるものや分担などを考えて自分のやりたい店をグループの仲間に説明する。
 - 発表後、拍手で意見を尊重する姿が見られる。
 - 実際に全員で縁日のお店をつくる。
 - 分担できめられたものをつくる。困っている友だちを助けて手伝う姿が見られる。



- できたお店をみんなでグループ発表する。
- グループ内で仲間意識が高くなり、つながりが強くなっている。
- 達成感により、人の意見を尊重して、褒めあう姿がみられる。

保育者のかかわり

- 実際に保育者が例をあげて前でする。
 - 人の意見を茶化さない正しいきき方を説明する。
 - 縁日の様子の写真や絵本でイメージしやすいようにする。
 - 自分で廃材などの材料を家からもってくる。
 - 子どもたちから声がかかるまで、保育者は見守る。
 - 使う材料が似ている同士で集まることなどの提案をし、自分たちで考えられるようにする。
- ポイント②
- 考えを茶化さないようにしっかりきいてるかを見守る。
 - うまく説明できない時は、質問形式に変えるなど保育者が助言する。



- イメージ通りにできなくて、困っているグループは、再度集めて方法を話しあうことを提案する。
- お店をつくりながらでる子どもの言葉を細かくひろって問題解決の助言のヒントにする。

- ポイント③
- 一人ひとりの感想をきいて、難しかったことや助けあったことなどをインタビューしてわかちあえるように話をする。
 - つくった自分への自信と、話をきいて、きく楽しみを知った相手への親しみを実感できるように、振り返りを進める。

準備

実践

振り返り

ポイント①

- さまざまなことに興味・関心をもったり、自分の考えやひらめきをもてるように、部屋の中の環境などを整えておく。
- 何でもいいや、どうせできないなどの考えにならないようにする。
- いろいろな楽しみを提案して積極的に取り組めるようにする。

ポイント②

- 友だちの意見をきいたりすることで、さまざまなことが新たにひらめく。その際には、友だちの意見を尊重したり、受け入れたりする。
- 同じ考えがあっていいことを知る。真似ではなく、仲間であることがわかる。
- 意見をきくことで、物事が発展していくことを知って、ワクワクする感情になる。
- うまくいかない子どもがいることに気づき、話をきいてあげることと、助けやアドバイスを受け入れることの大切さがわかる。

ポイント③

- できあがった作品をみんなでわかちあう。
- 自信のあるところ(見てほしいところ・頑張ったところ)や大変だったことをみんなの前で話すことによって、共感したり、さまざまなことを発見できたりする。

評価・反省

作品展を通して自分の考えをもって、イキイキとやりたいことをみんなの前で発表する子どもが多かった。

子どもたちから質問が次々とあがったことがおもしろかったが、同じことをきいたり、質問をおもしろがる(遊び)傾向もみられたので注意してみていた。

小学校に向けて、人の意見をきき、理解することができるようにしていきたい。

発表すること、意見をきくことの経験がさまざまなパターン(状況)でできるようにしていきたい。

コメント

自分の考えを絵で記入しておくことで、スムーズに発表できていたと思う。今回は、グループにわかれての意見の発表だったが、全員の前でのインタビューなど、人数を増やしたりして、もっとさまざまなことをテーマに話しあいを経験していくのがいいと思う。

きく力がまだまだ身についていないと思われるので、集中する時間を増やすこと、言葉の意味を知ることができるようにしていきたい。

5歳児 11月

テーマ

みんなでつくろう！

お互いの考えや思いを認めあい、みんなで共通のイメージをもって話しあい、協力しあいながら遊ぶ。



ねらい

- 自分の思いを伝えたり、相手の考えをきいたりしながら、友だちと一緒に活動する喜びや満足感を味わう。
- 自分で考えてつくることを楽しみ、それが認められることで達成感を味わう。
- 自分や友だちがつくったものを褒めあい、喜びを感じるとともに、友だちの大切さを知る。
- 自分たちで役割をきめ、責任感をもってやり遂げ、達成感を味わう。
- みんなで共通のめあてをもって、活動に粘り強く取り組む。

大切にしたい視点

自分も相手も
好きになろう！

大切に
する力

- お互いに認めあうことで、自分を大切にしようとする。
- 自分の作品や友だちの作品を褒めあい、お互いの良さを感じる。
- めあてに向かってお互いに力をあわせて工夫したり、協力したりして実現させ、満足感を味わう。

きいて話して
友だちをつくらう！

つながる
力

- 自分の考えを言葉で伝えるとともに、友だちの意見もきき入れながら遊びを楽しんだり、発展させたりする。
- 友だちとトラブルになった時は、自分たちで話しあい、解決しようとする。
- 友だちと言葉を使って話しあい、相談することでイメージを共有する。
- 役割分担をして、みんなでつくりあげる楽しさを味わう。

自分で元気な
生活をつくらう！

元気に生活
する力

- 戸外で元気に遊び、体を動かして遊ぶ楽しさを感じる。
- 友だちと一緒にルールを考えて遊ぶ楽しさを味わう。
- 見通しをもって友だちと協力しながら活動する。
- 自分が使った道具や材料を大切にし、自分で正しく片づける。
- 一つの活動に集中して取り組む。

学びを
楽しもう！

考えてチャレンジ
する力

- さまざまな道具や材料、素材にふれて遊びを楽しむ。
- 自分たちで遊び方やルールを考えて楽しむ。
- 自分たちでルールや約束を考え、相手と共有する。
- 遊びや制作活動の中で、数や文字などに興味をもつ。

小学校に向けて

- 自分で必要な生活習慣がわかり、身につける。
- 道具をみんなでゆずりあって使う。
- さまざまな活動に集中して取り組む力を身につける。
- 小学校で開催されている行事に参加し、小学生にあこがれを感じる。

保育者の援助

【ポイント1】

**みんなで
話しあいの場をもつ**

- 話しあいを通して、自分の思いを言ったり、相手の思いをきく機会をもつ。
- 役割を分担し、一人ひとりが責任感をもってやり遂げられるようにする。
- 友だちとルールをきめ、工夫して遊びを進められるように援助する。
- ルールや遊び方を考える中で、文字や数に興味や関心がもてるようにする。

【ポイント2】

**つくりあげる充実感を
味わえるようにする**

- 絵や図などで視覚的に示し、みんなで共通のめあて（イメージ）をもてるようにする。
- さまざまな素材を用意し、考えてつくる機会をもつ。
- 試行錯誤しながら、自分たちでつくりあげる充実感が味わえるようにする。

【ポイント3】

**互いのつくったものを認めあい、
達成感が味わえるようにする**

- さまざまな人と遊びを共有し、楽しさをわかちあえるようにする。
- 役割分担をして遊ぶ中で達成感が味わえるようにする。
- 互いの作品の良さを認めあえるようにする。

環境づくり

話しあえるグループづくり

子ども同士がじっくりと話しあえる場・機会をつくる。グループづくりの際には子どもそれぞれの特性をかんがみ、バランス良くグループわけができるようにする。

適した素材を準備する

子どもが創作意欲をもつように、さまざまな素材を集める。それぞれの素材の特性について子どもに教え、考えたり、試したりしながら創意工夫できるようにする。

発表・評価する場を設ける

子どもが作成したものなどを発表できる機会を設ける。また、子ども同士や保育者とその頑張りを認めあえる環境をつくる。

接続期の工夫

家庭・地域	●幼稚園・保育所での創作活動を、家庭などでも、発展させながら遊べるように意識づける。 ●参観日などを通して、保護者・異年齢との交流をする。
幼稚園・保育所など	●幼稚園・保育所の子ども同士がつくったもので一緒に遊んだりしながら、交流を深める。
小学校	●小学校で開催される行事に参加し、小学校入学へのあこがれを感じられるようにする。

事例①

大切にしたい視点

自分も相手も好きになろう！

きいて話して友だちをつくらう！

学びを楽しもう！

お店をつくらう！

7～8人のグループをつくり、グループでしたいお店を考え、友だちと相談しながらお店の内容や遊び方、ルールなどをきめてつくりあげていく。また、できあがったお店に年少児や他園（所）の子ども、地域の高齢者の方などにも遊びにきてもらう。

ねらい

自分の考えや思いを相手にわかるように言葉で伝えたり、友だちの話をきいたりしながら、一つのものをつくりあげていく。互いの考えや思いを伝えあい、友だちとのかかわりを深め、お店をつくったり遊びのルールを考える中で、文字や数にも興味をもつ。

子どもの姿・活動内容

- どんなお店がしたいか話しあう。
- お店のグループをきめる。
- 自分で考えた内容や、友だちと話しあった内容にそって、お店をつくる。
- 友だちと一緒に作る中で、自分の思いをわかりやすく相手に伝えたり、友だちの思いをきいたりする。
- お店のルールや約束をきめる。
- クラスで遊んでみて、友だちがつくったお店について、良かったことや気づいたことについてみんなで話しあう。
- 友だちや年少児、他園（所）の子ども、地域の高齢者の方などと一緒に、お店やさんごっこを楽しむ。
- お店の店員になったり、客になったりしながら遊ぶ。



- 友だちのかかわりが広がったり、つながりが強くなったりしている。
- さまざまな遊びの場面で、友だちと相談しながら遊びのルールを自分たちで考え、遊びを発展させる姿が見られる。

保育者のかかわり

ポイント①

- 子どもたちの中で共通のイメージがもちやすいように、図式化するなどして子どもたちの考えを示していく。
- グループぎめは、子どもたちでできるようにする。

ポイント②

- さまざまな素材を用意し、子どもたちが試したり、考えたりしながらつくっていけるようにする。
- トラブルが起こった時には必要に応じてかわり、原因を伝えるなど自分たちで解決できるようにする。

ポイント③

- 遊びの約束やルールをきめる中で、文字や数に興味をもてるようにしていく。
- 自分の考えをみんなの前でわかりやすく言葉で伝えられるように促す。
- 友だちの考えをきき、お店が発展できるようにする。
- 年少児や他園（所）の子ども、高齢者の方など、さまざまな人とかかわっている姿を認め、コミュニケーション力が高まるようにする。
- お客さんに喜んでもらったことが、子どもたちの達成感や充実感につながるようにする。

- 友だち関係の広がりを意識し、さらに関係が深まっていくような遊びの環境を構成していく。
- 自分たちで遊びを発展させる姿を認め、子どもたち自身で遊びを進める楽しさを味わい、問題解決ができるようにしていく。

準備

実践

振り返り

ポイント①

- 子どもたち全員がイメージをもちやすいようにするとともに、遊びの前にはそれぞれのグループで、「今日はどうなところを頑張るのか」などについても示し、子どもたち自身が自分たちできめた目標について向かっていけるようにする。
- イメージを共有することによって、子どもたちの意欲を高め、活動に取り組んでいけるようにしていく。
- 子どもたちからの新たな発想も取り入れていけるようにする。

ポイント②

- 子どもたちのトラブルでは、保育者が先行して解決するのではなく、互いの思いをしっかり伝えてから、子どもたちで問題が解決できるようにしていく。
- トラブルになっている子どもだけでなく、必要に応じて、グループやクラスでも話しあうようにし、子どもたちの中で話しあいができるように促していく。
- 自分の思いを言葉で伝えられるようにし、また友だちの思いをきくことで遊びが充実したものになることを伝えていく。

ポイント③

- 自分たちで遊びを試す中で、「何回したらおしまいしよう」と遊びのルールを考えたり、「周りからも見えるように看板をつくろう」とする子どもたちの姿をとらえたりし、数や文字に興味をもてるように促していく。
- 遊びの中で、約束やルールを守って遊ぶことの大切さに気づいたり、それを守ることによって友だちとの遊びがより楽しく、充実したものになることを伝えていく。

評価・反省

グループごとに進むスピードに違いがあり、保育者がバランス良くグループの活動にかかわれないこともあったので、時には違うグループの友だちの意見もきけるようにしていく。

連続した遊びでは、子どもたち自身がその日の活動の目標をたてられるようにすることで、イメージを共有しながら取り組むことができたのではないかと考える。

また、遊びのきまりやルールなどで数や文字への興味をもてたことで、遊びの中で自然に数の対応ができたり、数を数えたりすることができたのではないかと考える。

コメント

子どもたちが自分たちで話しあいを重ねて遊びをつくりあげていく経験は、自分たちでつくった遊びだからこそ、思い入れが強く、片づけたりものを大切にしたりする気持ちも強くなると思う。

遊びをつくっていく中で、互いの主張が食い違ったり、自分の思いが通らなかったりする経験を通して、子どもたちは協調性や思いやり、友だちとのかかわりの中での折りあいをつけていくのではないかと考える。

動物園をつくろう！

遠足で動物園に行ったという共通体験からイメージを膨らませ、動物の出てくるゲームを友だちと一緒に考えてつくる。遊びコーナーで店の役をしながらさまざまな人とかかわり、ルールを伝えたり困っている友だちにアドバイスをしたりなど言葉を用いて伝えることを楽しむ。

ねらい

これまでの生活経験や遊びの中で身につけてきたことを活かすとともに、友だちと話しあい、試行錯誤しながら遊びを発展させる。また、遊びにきた人にルールを伝えたり、年少児に優しく接するなど、コミュニケーション能力や思いやりの気持ちなども身につける。

子どもの姿・活動内容

- 遠足を振り返り、楽しかったことなどを話しあう。
- 子どもたちの発案で、クラスみんなでゲームづくりをすることにする。
- どんなゲームがしたいかを、事前に考えてくるようにする。

ポイント①

- 遊びのアイデアを出しあう。
- 友だちの話をききながら、イメージを膨らませる。
- 似たアイデアを一つにしたり、意見をつけ加えたりしながら、イメージをまとめる。
- どのようなものをつくるか話しあい、ゲームの設計図をかく。
- つくるのに必要な物を考え、準備し、つくり始める。
- 困ったり、上手くいかないことをグループで話しあい、自分たちで遊びながらゲームのルールなどを考えていく。

ポイント②

- 4つのグループで交代して遊びながら、良かったことや困ったことなどを話しあう。
- 他の人の意見をもとに、ゲームのルールを考えなおしたり、説明の仕方を工夫したりする。
- 友だちや年少児、保護者などにお客さんになってもらい、遊びの説明をしたり、遊び方のアドバイスをする。

- お客さんから動物園の感想をきく。
- 自分たちが遊んだり、お店の人になってどうだったか話しあう。

保育者のかかわり

- 子どもたちの話に共感しながら一緒に遠足を振り返る。
- 「また行きたい」という子どもの思いに共感する。
- ゲームづくりをしたいという子どもたちの思いやアイデアを他の子どもにも伝え、クラス全体で取り組めるような雰囲気づくりをする。
- 話しあいの進行をしながら、たくさんの子どもの思いをきく。
- 一人ひとりの意見を受けとめ、認めたり言葉を補ったり絵にかいて表わすなどして、イメージが共有できるようにする。
- 互いの思いや考えを伝えあい、相談しながら遊びのイメージを膨らませられるように見守る。
- 子どもたちからでてきた発想や考えを大切に受けとめ、実現できるように援助する。



- 頑張ったことや工夫したことをクラスの友だちに知らせ、認めあえる場とする。
- 場に応じた言葉を用いてかかわる姿を見守りながら、必要に応じて伝え方を一緒に考える。

ポイント③

- 自分たちのつくった遊びが認められるような場を設け、達成感や充実感が味わえるようにする。

準備

実践

振り返り

ポイント①

- 協同の遊びをする時に不可欠となる「イメージの共有」を行う。
- 自分だけで遊ぶのではなく「友だちと一緒にしたい！」という思いがあるからこそ、友だちの話に興味をもち、頭の中で創造したり、刺激を受けて自分なりに考えたり、一緒に楽しい遊びをつくり出していこうという意欲につながる。

ポイント②

- 今までの経験をもとに「こうすれば、こうなるはず。」と考えたことを試してみる。考えた通りの結果が得られたり、思った通りにいかずにはがっかりしたり。成功した理由や失敗した理由を考え、新たに試しながら何度となく試してみる。
- 思い通りにできたという成功体験が自信となり、このような経験の積み重ねが「なぜだろう？ どうしてだろう？」と自ら探求することの楽しさへとつながる。

ポイント③

- 試行錯誤を繰り返し、友だちと力をあわせてつくった遊びが認められることで、達成感や充実感を味わうことができる。
- この認められる場面を意図して設け、達成感や充実感をしっかりと味わうことが、何事に対しても意欲的に取り組もうとする態度を養い、学習の場面にも大いに活かされると考える。

評価・反省

動物園でたくさんの人に遊んでもらい、楽しかったと言ってもらえて、子どもたちは頑張ってつくってよかったと達成感を味わうことができた。

一人ひとりが自分の思いや考えを友だちに伝えながら活動できやすいように小グループ編成での活動にしたが、取り組む姿勢に個人差がみられたので、友だちと協力して取り組めるように頑張っている姿を認めたり励ましたりといった援助が必要であった。

また、イメージを実現させるために試行錯誤を繰り返すことが大切だが、何度も試してみることができる時間の保障が十分にできない部分があった。

コメント

クラスや少人数で話しあいながら活動を進めていく遊びである。それぞれが思ったことを伝える中でどのように決定していくかがポイントである。

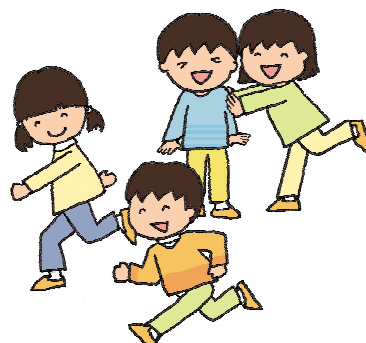
友だちの思いもききながら、こうしようと上手に提案できる子ども、自分の思いを強く押し進めようとする子ども、なかなか考えがまとまらずに活動が進まないグループなど、さまざまな様子が見られる中で、時には保育者が仲介役となりアドバイスすることで、自分の思いと友だちの意見の双方を大切にしながら話しあうということを経験し、何度も繰り返す中で徐々に上手に話しあえるようになって感じた。

5歳児 12月

テーマ

みんなで遊びを進めよう！

自分の力を発揮しながら、主体的に遊びや生活を楽しむ。



ねらい

- 友だちと協力したり工夫したりして、遊びを進める楽しさを味わう。
- 年越しや新年を迎える準備を通して、小学校生活に興味をもつ。
- 寒さに負けず、友だちと戸外で元気に遊ぶ。

大切にしたい視点

自分も相手も
好きになろう！

大切に
する力

- 友だちがつくったものやできたこと、表現したことに対して、言葉や動作で褒めあう。
- 友だちと年越しや新年への楽しみをわかちあい、期待感を膨らます。
- みんなで楽しく遊びながら、友だちとのつながりを感じる。

きいて話して
友だちをつくらう！

つながる
力

- 自分たちで話しあい、相談しあいながら遊びを工夫して進める。
- 友だちが話すことを最後までしっかりきいたり、見たりする姿勢を身につける。
- 問題が起こった時や友だちとトラブルになった時は、自分たちで話しあい、解決しようとする。

自分で元気な
生活をつくらう！

元気に生活
する力

- 寒さに負けず戸外で元気に遊び、体が温まる心地良さや体を動かして遊ぶ楽しさを感じる。
- そうじの際にも、遊具や用具の正しい使い方を理解し、大切にしながら使用する。
- 室内と戸外の温度の違いを感じ、自分で衣服を脱いだり、着たりしながら調整する。
- 一日の生活の見通しをもつ。

学びを
楽しもう！

考えてチャレンジ
する力

- 自分たちで遊び方やルールを工夫し、発展させて進める充実感を味わう。
- 友だちと協力したり、工夫したりして自分たちで遊びを考える。
- 遊びや制作活動の中で、数や文字などに興味・関心をもつ。

小学校に向けて

- 自分で必要な生活習慣がわかり、身につける。
- 一日の見通しをもち、時間を意識した行動をとるようになる。
- 道具をみんなでゆずりあって使う。
- ほうきやぞうきんの正しい使い方を知る。
- 寒さに負けず元気に過ごすため、規則正しい生活を身につける。

保育者の援助

【ポイント1】

表現することを楽しませる

- 一人ひとりの頑張りや工夫を認め、意欲をもって発表できるようにする。
- みんなの前でグループで考えたことを表現し、充実感を味わえるようにする。
- 友だちの表現を見たりきいたりしようとする姿を認めていく。
- 一人ひとりの良さが発揮できるように、グループの人数やメンバーを工夫する。

【ポイント2】

戸外で元気に遊ぶ 心地良さを感ぜさせる

- 集団遊びを通して、ルールを守って遊ぶことの大切さや、みんなで遊ぶ楽しさを知らせていく。
- 自分たちで遊びを伝えあったり、教えあったりする姿を見守り、楽しさが味わえるようにする。
- トラブルが起きた時は、話しあいの機会をもつことで、話しあいによる解決ができることを知らせていく。

【ポイント3】

年末年始の行事に 興味や関心をもたせる

- 干支や年越しなど、伝統行事を知らせて年末の行事に興味や関心がもてるようにする。
- 大そうじをする中で、身の回りがきれいになる心地良さを感ぜる。

環境づくり

遊びを発展させる場づくり

友だちと一緒にイメージを広げながら遊びをつくれるように、さまざまな材料や用具を準備する。音楽や文字・数字・図形などへの興味の高まりを広げられるようにする。

体を動かす機会づくり

戸外で積極的に体を動かす機会を設け、体を動かすと温くなる心地良さに気づいていけるようにする。また、子どもが衣類の調節をできるように声かけをする。

年末行事をイメージさせる

年末行事を楽しく過ごせるよう、役割や内容を具体的に話しあう。また、子どもが期待感をもって年末を迎えられるようにイメージを広げられる遊びを行う。

接続期の工夫

家庭・地域	●年末年始ならではの経験をする時間を大切にしてもらう。 ●一人ひとりの成長を伝え、家庭と同じ思いで育てていくことを確認する。
幼稚園・保育所など	●年末の行事をみんなで楽しめるようにする。
小学校	●子どもや保護者が感じる、就学に向けての不安を保育者と教師が共有する。

事例①

大切にしたい視点

自分も相手も好きになろう！

きいて話して友だちをつくらう！

学びを楽しもう！

積み木遊びを楽しもう

友だちとコミュニケーションをはかりながら、一緒に積み木遊びを行う。

ねらい

「自分で何かつくりたい」という欲求を満たし、友だちと一緒にいることで、友だちとの協同性を養う。

子どもの姿・活動内容

保育者のかかわり

準備

- 遊びのコーナーにある遊具などを確認し、遊ぶことのイメージを膨らませる。
- 遊びに必要な約束を知る。

ポイント①

- 遊びのコーナーで、積み木をする子どもがでてくる。
- 友だちがつくるのを見て、興味をもつ子どもが増えてくる。
- 一つの制作に2～3人で取り組むグループができてくる。
- 制作が進むにつれて、「必要な積み木を探す子ども」「積み木を積みあげる子ども」などの役割分担や分業がでてくる。
- 「積み木を探してくる」「ありがとう」などのやりとりが見られるようになる。
- 作品が仕上がり、友だちと一緒に楽しそうに眺める。
- 仕上がった作品の良かったところや作成段階で難しかったところなどを話しながら、互いの意見や考えを共感する。



- 仕上がった作品を写真に撮り、遊びに区切りをつける。
- 使った積み木をもとのあった場所に片づける。

実践

- 遊びのコーナーに積み木を用意する。
- 保育者が遊びに必要な約束を知らせる。

- 子どもたちの様子を良く観察し、遊びへの興味、友だち同士のかかわり方などを把握する。
- 制作に必要なものを随時用意していく。

ポイント②

- 遊びが展開していく過程で起きた、困難や友だち同士のトラブルに対してはその様子を見守り、必要に応じて助言をしたり仲立ちをしたりする。

ポイント③

- 仕上がった作品は丁寧に扱い、子どもたちが満足感や達成感を味わえる環境づくりや声かけをしていく。



- 子どもたちの作品は写真に撮って残したり、保護者に見てもらったりして、作品の片づけ方にも気を配る。

振り返り

ポイント①

- 遊びを始める前に、遊びの約束事を知らせておくことで、子どもが主体的に遊びを進める。
- 約束事をしっかりとときき、その理由も理解することで、ルールを意識した中での遊びを進める。
- 友だちとの約束事を守って遊ぶことで、集団遊びの中で協同性を養う。

ポイント②

- トラブルやぶつかりあいがあった時は、必要に応じて保育者も仲立ちをし、一方的な解決にならないようにする。
- 役割分担や協同作業がうまくいった時は、認めたり励ましたりする。

ポイント③

- 仕あがった作品に対しては、子どもたちが達成感や満足感を味わうことができる扱い方をする。
- 仕あがった作品に対して、子ども同士が感想を言いあい、互いの頑張りを認めあえるようにする。

評価・反省

構成遊びは、個人でも楽しめる遊びであるが、友だちとの協同作業へと展開した時、子どもたちは一人で遊ぶ時とは違うおもしろさを発見することができる。それが友だちと一つのものをつくりあげる楽しさである。この楽しさの中で、人とのつきあい方、気持ちのコントロール、自分と相手を認めあうことなどを学んでいく。

5歳児はそれができるようになる年齢でもある。

コメント

小学校への接続期の取組みとして、日常の遊びの中で経験することの中にも大切にすべきことは多い。友だちとのかかわりについては特にそのように感じる。

一人で遊ぶ構成遊びも大切であるが、今回は友だちとの関係を中心に遊びが発展した事例である。

紙すき体験！

身近な環境問題について学ぶため、ごみ処理場を見学する。また、牛乳パックからはがきをつくる体験をすることで、資源の再利用について学ぶ。

ねらい

工場見学を通して資源の再利用やエコといった環境問題を、5歳児なりに考えられるようにし、今後の日常生活において、ものを大切にする気持ちを養う。

子どもの姿・活動内容

- ごみ処理工場を見学し、家庭からでたゴミがどこでどのように処理されているのか知る。
- 家庭から集めた牛乳パックを煮詰めたものから、表面のコーティングをはがし、パルプを細かくちぎってミキサーにかけるという作業を友だちと一緒にやり、パルプ液をつくる。



- 保護者に手伝ってもらいながら、紙をすいてクリスマスカードや年賀状のもとになる台紙をつくる。
- つくった年賀状に絵や字をかき、ポストに投函する。
- 年が明けて年賀状を送った相手とのやりとりなどについてクラスの人々と話しあう。

保育者のかかわり

- どれだけたくさんのゴミが家庭からでるか分かりやすいように話す。
- 「もったいないばあさん」などの絵本を読みかせ、ものを大切にする気持ちをもてるようにする。

- 紙の原料が木であることを知らせ、環境についても興味をもてるようにする。
- 実際に子どもたちが作業をすることで、牛乳パックの中のパルプから紙ができることを実感できるようにする。

ポイント①

- 楽しい雰囲気で作業をし、リサイクルが楽しいことであるという気持ちをもてるようにする。

ポイント②

- 自分たちのつくったパルプ液から紙をすき、紙をつくるという工程を体験することで、紙がどのようにできるかということに興味をもったり、牛乳パックが紙になることのおもしろさに気づいたりする。

- 乾いたはがきをもち帰り、保護者などに住所をかいってもらったり、友だちと一緒に絵や字をかいったりしながら、自分でつくったものがはがきとして活用できる嬉しさを感じられるようにする。

ポイント③

- 「年賀状ありがとうって言ってもらってうれしかった」などと話をしながら、リサイクルしたはがきが買ったはがきと同じように使えることを確認したり、自分でつくったはがきが喜んでもらえたことの嬉しさを感じられるようにする。

準備

実践

振り返り

ポイント①

- 牛乳パックは普段から使い、つくって遊ぶなど、子どもたちにとって身近な素材であるが、違う使い方もできることを知ることができた。
- コーティングをはがしてパルプをちぎったり、ミキサーにかけてパルプ液にしたりという作業を友だちと楽しみながら、何日も繰り返し実際に体験することで、「牛乳パックの中身(パルプ)は使える。」「ゴミに捨てたらもったいない。」ということが実感できる。

ポイント②

- 木枠に網をはさんだものでパルプ液をすくい、そっと引きあげると紙の原型ができるということを経験することで、紙がどのようにできているのかを知ることができる。
- 自分たちがちぎった牛乳パックから紙をつくることで、できあがった紙に特別な思いをもつことができ、ものを大切にする気持ちにもつながる。

ポイント③

- 実際に使えるということがリサイクルをするうえで大切なことであるが、年賀状として絵や字を書いてポストに投函し、相手が喜んでくれる姿を想像して期待をもって待つことなどが、リサイクルが楽しいという思いをもつことにつながると期待する。
- もち帰ったはがきに保護者に住所をかいてもらい、保護者にもリサイクルを体感してもらうことができた。

評価・反省

紙すき体験を通して、ものの成り立ちを学べる機会となった。パルプ液を始めからつくることで、牛乳パックからできているということを一人ひとりが実感でき、不思議なこと、すごいこととして感じたようである。この体験を通して、他のものやそのつくりに対する興味・関心が高まり、意欲的に学ぼうとすることにつながっていけば良いと思う。子どもたちだけでなく、牛乳パック集めや紙すき体験に保護者も一緒にかかわったことで、家族ぐるみでエコについて考える機会となり、紙すき体験以降、家庭でゴミを捨てる際に、「それまだ使える」「園にもって行くから捨てないで」などものを大切にする意識が高まった。

コメント

どの工程も子どもたちにとってとても楽しいものであった。

捨てることはたやすいが、牛乳パックやトレーの回収にしても洗ったり牛乳パックを開いたり、リサイクルにはひと手間かかる。

子どもたちの楽しかったという経験が、リサイクルは面倒だから捨ててしまおうではなく、意欲的にリサイクルに取り組むきっかけになったのではないかと感じた。

また、自分たちでつくったものが、お金を出して買ったはがきと同じように使えるという驚きはとても新鮮であったようである。

5歳児 1月

テーマ

新しい生活が始まるよ！

新年を迎え、小学校への関心や期待感が高まる。



ねらい

- 小学校生活に関心をもつ。
- 保育者や友だちの話を最後まできく。
- 健康な生活リズムを整える。
- お正月遊びを通して、数や文字に興味や関心をもつ。

大切にしたい視点

自分も相手も
好きになろう！

大切に
する力

- 当番活動などを通して、自分が役に立っている喜びを感じる。
- 友だちの意見をきいたり、気持ちに気づくことで、相手を思いやる姿勢を身につける。
- 友だちや保育者の話を最後まできき、理解し、考えて行動しようとする。

きいて話して
友だちをつくらう！

つながる
力

- 友だちに冬休み中にあった出来事などを話しあうことで、自分の思いを伝えたり、相手の意見をきいたりする。
- 自分たちで話しあい、相談しあいながら遊びを工夫して進める。

自分で元気な
生活をつくらう！

元気に生活
する力

- 冬休みから明けて、規則正しい生活リズムにもどすとともに、日頃の生活の見通しをしっかりとつ。
- 体調や気温に応じて自分で衣服を脱いだり、着たりしながら調整する。
- 食材を育てている人や調理してくれる人に感謝の気持ちを持ち、友だちと一緒に楽しんで食事をする。
- カルタや正月遊びなどで、友だちと一緒にルールを守って遊ぶ楽しさを感じる。

学びを
楽しもう！

考えてチャレンジ
する力

- 遊びや生活の中で、数や量、図形、文字、ものの性質への興味・関心が高まる。
- 文字や数字を使って、遊びを工夫したり、発展させたりする。
- 友だちと一緒にルールをつくったり、工夫して遊ぶ。

小学校に向けて

- ひらがなに興味・関心が高まり、自分やさまざまなものの名前をかこうとする。
- 自分が経験した出来事などを、言葉や文字、数や量を使って相手に伝えようとする。
- 自分に与えられた役割について理解し、自信をもって物事に取り組む。
- 遊びや生活でのルールについて理解し、友だちと一緒に守りながら取り組む。

保育者の援助

【ポイント1】

経験したことを話したり、
きいたりする機会を多くもつ

- 安定した雰囲気の中で、ゆっくり話をきくようにする。
- ポイントを押さえてわかりやすく話すようにする。
- 経験したことを自分の言葉で話せるように、必要に応じて助言したりする。

【ポイント2】

文字や数字に興味が
もてるようにする。

- 遊びの環境を整え、文字や数字への興味や関心がもてるように工夫する。
- 数や量、図形、文字、ものの性質を使って、遊びを発展させながら楽しめるようにアドバイスしたり、一緒に遊んだりする。

【ポイント3】

健康な生活リズムを整える

- 基本的な生活習慣が定着するように、一日の見通しをもたせ、時計を意識して行動できるようにする。
- 寒さに負けず友だちと一緒に元気に戸外で体を動かす心地良さを知らせる。
- 食品の種類や体への働きを伝え、食事の大切さを理解できるようにする。

環境づくり

思い出を語りあう時間づくり

冬休みに経験したことを友だち同士や保育者と話しあいの時間をつくる。その際は、話しやすい雰囲気づくりやゆっくりと話せる時間を保障する。

文字・数字を表記する

遊具や用具などのさまざまなものの横に名称や注意点などをひらがな表記することで、文字や数を意識した環境をつくる。

生活の流れを視覚化

一日の生活の流れを、わかりやすいイラストや図形などを使って視覚化できるようにする。

接続期の工夫

家庭・地域	● 保護者と相談する機会を設けることで、就学への不安を取りのぞく。 ● 就学に伴う生活習慣の見直しなどについて、保護者と情報交換・共有を行う。
幼稚園・保育所など	● 幼稚園・保育所との交流により、さまざまな人とのかかわる機会をもつことで、初めて会う人とかかわっていく力やコミュニケーション能力を高める。
小学校	● 小学校の教師の話をきく機会をもつ。 ● 小学校の教師と小学校生活の流れについて情報共有を行い、子どもが小学校生活のイメージがもてるようにする。

事例①

すごろくづくり

4、5人のグループでテーマをきめ、すごろくづくりをする。すごろくづくりの際には、形・数・文字などさまざまな表現が楽しめるような工夫をする。

ねらい

伝承遊びを通して形・数・文字に興味・関心をもち、就学への期待を高める。友だち同士で思いを伝えあいながら、ルールをつくる楽しさを味わい、ルールを守る大切さを知る。

子どもの姿・活動内容

- カルタ・すごろくなどのさまざまな伝承遊びを友だちと一緒に楽しむことでさまざまなルールがあることを知る。
- 既製のすごろくで遊ぶ経験をし、友だちと一緒にルールを守る楽しさを感じる。

ポイント①

- グループでテーマをきめ、すごろくをつくる。
- 形・数・文字などを使いながら、自分たちのルールを考える。
- さまざまな素材や廃材を探し、工夫しながら友だちと力をあわせる。
- 数や文字がわかりにくい子どもも友だちと一緒に考え工夫して取り組んでいる姿が見られる。

ポイント②

- 自分たちがつくったすごろくの遊び方(ルール)を説明する。
- 友だちがつくったすごろくで遊んでみる。



ポイント③

- 友だちのつくったすごろくで遊んでみてどうだったかを話しあう。

- ルールを守って遊ぶ楽しさを友だちと一緒に味わっている姿が見られる。
- 友だちと思いを伝えあう楽しさを感じている。

保育者のかかわり

- 友だちと一緒にルールを守る楽しさを知らせ、わかりにくい子どもには保育者も一緒に遊びながらルールを知らせる。
- さまざまな既製のすごろくを準備し、保育者も一緒にルールを守って遊びながらイメージが高まるようにする。

- 子どもが遊び方を考えている姿を見守り、行き詰った時には保育者からヒントを与えることで、自分で考える楽しさを味わえるようにする。
- 自分の考えや意見を言いにくい子どももいるため、そんな子どもたちが自分の考えを言いやすくなるように、あらかじめすごろくをつくるにあたっての条件(約束)を伝えておく。

- 友だちにわかりやすく説明できるように、保育者も質問をなげかけながら相手に伝えるように援助する。
- 遊んでいる様子を見守りながら、困っている時には保育者も一緒に考える。

- 自分の思いを相手に言葉で伝えようとしている姿を見守り、励ます。
- おもしろかったところや難しかったところなどを出しあい、遊んだ感想を確認しあう。
- 互いに工夫したところや考えたところを認め、励ますことで次への意欲につなげる。

- ルールが伝わりにくい子どもも一緒に楽しめるように、必要に応じて保育者が説明したりするなどの声かけをする。
- ルールを守るから楽しいことを感じられるような言葉をかける。

準備

実践

振り返り

ポイント①

- ルールを守る楽しさをクラス全体で味わいたいと考え、あえてルールを守らなければ成立しない遊びを選択した。友だちと一緒にゲームをつくるおもしろさを経験することで、ルールを守る大切さや楽しさに気づく。
- 既製のものではなく、友だちが考えたルールだからおもしろいという気持ちになり、自らルールを守って遊ぶ楽しさを存分に味わえる。
- ルールが伝わりにくい子どもには保育者も一緒に遊びながら、ルールがわかりやすいように声かけをし、最後まで遊べるように援助する。

ポイント②

- 数や文字に興味・関心があるかないかは個人差がでてくる。そのため遊びを通して少しでも数や文字に興味・関心をもち、就学への期待につながるように援助する。
- サイコロの出た目にあわせて進む(数の学び)、止まった場所のルールを読む(文字の学び)など、遊びを通して自然に形、数、文字に興味・関心が高まる。
- 数や文字が苦手だった子どもも園(所)で楽しかった話をもち帰り、保護者と一緒にすごろくをつくってくる子どももいた。

ポイント③

- 自分たちの考えた遊びのルールを、相手にわかりやすく説明する難しさを感じていたが、その都度保育者が質問をなげかけたり、具体的な話ができるように声をかけたりするだけで、自分の言葉として相手に伝わるように話すことができていた。
- 友だちの話を最後まできこうとする態度が培われてきている。
- 自信をもって説明している姿が、就学への意欲や楽しみにつながっていく。

評価・反省

数や文字への興味・関心度は個人差があるため、事前に子どもの特性を把握し、一人ひとりに応じた援助が必要である。

数や文字が苦手な子どもでも、友だちと一緒に遊びながら数や文字にふれることで、興味・関心をもち、就学への期待が高まったように感じる。

遊びの条件を設けすぎことは、子どもたちのもっている遊びへの豊かな感性や可能性を狭める場合もあると感じた。

グループでの活動になるため、就学にあたり友だちとのコミュニケーション能力の向上につながった取組みになった。

コメント

友だちと一緒にルールを守って遊ぶから楽しいという気持ちが強くなったように感じる。

年長のこの時期は、自分の気持ちを相手にわかるように伝えたり、相手の気持ちに気づいたりする活動を大切にしている。

この遊びを通して数や文字に興味・関心をもつだけでなく、少人数で考えを伝えあう経験をすることで、自信や意欲につながり、次への活動にも意欲的に取り組むことができると思う。

事例②

伝言遊びをしよう

グループになり友だちに言葉を伝達していく中で、正しく言葉が伝達されるかを競う。

ねらい

グループで正しく伝えることを競うことで、言葉をしっかりと聞き、覚えることを一人ひとりが意識することで協力しあうことの大切さに気づく。

子どもの姿・活動内容

- 遊び方のルールや約束事をきき、理解する。
- グループをつくってわかる。
- グループごとに順番をきめる。
- 保育者が、一番目の子どもに言葉を伝える。
- 理解し、覚えたら次の子どもへ伝える。
- 最後まで同じように伝えていく。
- 途中でわからなくなった子どもは、前の子どもに再度きき返し覚え、次へ伝える。
- 終わった子どもも一生懸命協力しようとする。
- 最後の子どもは伝えてもらった言葉を全部のグループがそろそろまで発表しない。

ポイント②



- グループごとに、最後の子どもが伝言された言葉を発表していく。
- 正解を喜びあったり、間違いを悔しがったりする。

ポイント③

- 正解できたことで、協力しあえた喜びを感じたり、自信をもつことができる。
- 間違えた悔しい思いが、次回への意欲とつながる。

保育者のかかわり

ポイント①

- 早さを競うのではなく、正しくきいて伝えることが大事であることを話す。
- グループづくりの際は、グループの差が出ないように考え、適宜助言する。



- 全員が知っていて覚えられる、簡単な言葉から始める。
- 声の大きい子どもには、周りにきこえないように伝えることを知らせる。
- 一度で覚えられず困っている子どもがいたら、焦らず待つよう周りに促す。
- 覚えにくい子どもには、保育者が一緒にきいて伝えていく。
- 早く終わりすぐに伝えたがる子どももいるので、あらかじめ待つことを伝えておく。
- 子どもたちの発表が終わった後、保育者が正解を発表する。
- 正解したことを褒めたり、間違ったグループも頑張っていた部分を取りあげ、励ましながらか次への意欲へと促していく。

- きちんと伝わる満足感や、間違ってしまう残念な気持ち、間違いのおもしろさなどを話し、遊びのおもしろさを子どもたちと共感する。

準備

実践

振り返り

ポイント①

- 正しく伝えるだけでなく、自分の順番が終わった後や順番を待つ時間も、ゲームが終わるまで期待し楽しめることが大事である。
- みんなで勝つためには自分はどうしたらいいのか、どうしなければならないのか、協力すること、ともに喜ぶことに気づいていく。

ポイント②

- 友だちが止まったり、困っている様子があったら、みんなで助けてあげるためのさまざまな行動をとろうとする。
- 相手を責める言葉や行動ではなく、前に戻ってやり直したり、はっきり、ゆっくり言うように励ましたりなどスムーズにしていけるアイデアがでてくる。

ポイント③

- 単純に正解を喜んで勝負をきめる遊びではなく、プロセスを喜んで評価しあう。
- 友だちの失敗やこまごました友だちとのやりとりを楽しみ、普段とは違う一面に気づき、改めて友だち関係が深まり、グループ内での親密感も高まる。

評価・反省

単純な勝ち負けで喜ぶのではなく、グループごとの細かいエピソードを一つひとつ紹介しながらゲーム全体をみんなで振り返り、褒めたり励ましたりすることで、次への意欲へつなげることができた。

このゲームで得た自信や満足感を他のさまざまな活動へとつなげていけるようにしたい。

コメント

思いがけない子どものアクシデントやしぐさ・表情が見られ、その場の雰囲気になごます結果になった。

集団遊びや言語が苦手な子どもも、気持ちほぐれ、スムーズに最後まで参加できたうえ、ゲーム全体での盛りあがりにもなり、周りの子どもたちにとっても良い影響になった。

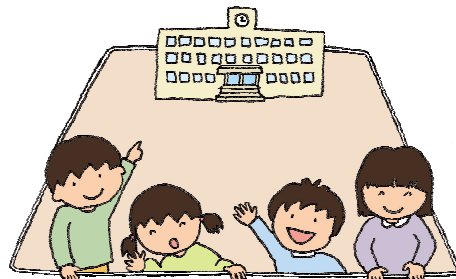
ゲームの方法としては、遊具や環境設定の工夫により、違う遊び方もできる。

5歳児 2月

テーマ

学校ってどんなところ！？

体験入学を通して、小学校への具体的な期待をもつ。



ねらい

- 小学校生活に期待をもつ。
- 給食体験を通して、学校給食に興味をもつ。
- 健康的な生活リズムを再確認しながら、身につける。
- 目標に向かって友だちと話しあい、協力したり、認めあいながら遊びを発展させる。

大切にしたい視点

自分も相手も
好きになろう！

大切に
する力

- 当番活動などを通して、自分が役に立っている喜びを感じる。
- 自分が考えたことや感じたことを、相手に伝え、理解しあえるようにする。
- 小学校での給食体験を通して、小学校や小学生に対して親しみをもつ。
- 年長児としての自覚をもち、動植物の飼育・栽培を年少児に引き継ぐ。

きいて話して
友だちをつくらう！

つながる
力

- 友だちと役割を分担し、お互いに考えを話しあいながら協力して遊びを進める。
- 友だちと一緒に共通の目標に向かって工夫したり、話しあったりして実現する喜びをわかちあう。
- 初めて会った小学生に対しても、積極的に話そうとしたり、話をしっかりきこうとする。

自分で元気な
生活をつくらう！

元気に生活
する力

- 寒さに負けずに体を動かしてさまざまな運動遊びを楽しむ。
- 時間を意識し、見通しをもちながら遊んだり、主体的に生活を進めようとする。
- 体調や気温に応じて、自分で衣服を脱いだり着たりしながら調整する。
- 食材を育てている人や調理してくれる人に感謝の気持ちを持ち、友だちと一緒に楽しんで食事をする。

学びを
楽しもう！

考えてチャレンジ
する力

- 遊びや生活の中で、数や量、図形、文字、ものの性質への興味・関心が高まる。
- 文字や数字を使って、遊びを工夫したり、発展させたりする。
- 友だちと一緒に協同的な遊びや活動を通して、やり遂げた充実感を味わう。
- 友だちと一緒に音楽やリズムにあわせて踊ったり、共通の表現をしたりすることを楽しむ。

小学校に向けて

- 小学校の教室や体育館など、小学校生活の環境についてのイメージをもつ。
- 小学校の授業の様子を見ることで、就学への期待が高まる。
- 小学校の給食体験を通して、小学校給食の内容や味を知る。

保育者の援助

【ポイント1】

**友だちと思いを伝えあう
喜びを味わえるようにする**

- 人の話を最後まできく態度を身につけさせる。
- 共通の話題で話しあう中で、自分の思いを伝えたり相手の話をきいたりできるように、必要に応じて言葉かけなどの援助をする。
- 初めて会う人にも積極的にかかわっていけるように、言葉をかけ一緒に遊んだりする。

【ポイント2】

**みんなで力をあわせてやり遂げた
達成感を味わえるようにする**

- さまざまな活動にじっくりと取り組み、目標が達成したことの満足感を味わえるようにする。
- 友だちと共通の目的をもって協力し、最後までやり遂げる充実感を味わえるようにする。
- 目標に向かって一生懸命取り組む姿を受けとめ、励ましたり、共感して自信をもたせていく。

【ポイント3】

就学の期待を高める

- 小学校がどんなところなのか、期待をもてるような情報を伝えるようにする。
- 遊びや生活の中で、数や量、図形、文字を取り入れ、それらの興味・関心を高めていく。
- 生活や遊びで自信をもてない子どもには援助をし、意欲を育てていく。

環境づくり

話しあえる雰囲気づくり	イメージの共有化	就学への意識を高める環境づくり
話しあいを進めやすい雰囲気づくりをする。一人ひとりの思いをきちんと出しあえるような話しあいにする。	共通のイメージをもてるような教材・用具を用意する。共通のイメージをもつために、絵・写真やイラスト化するなどの工夫をする。	就学に対する不安や期待を受けとめ、入学を楽しみにするような雰囲気づくりをする。時間や生活の流れをわかりやすくするために、室内の掲示やレイアウトを工夫する。

接続期の工夫

家庭・地域	● 早寝・早起き・朝ごはんなど、生活習慣を整えていくことを保護者に伝える。 ● 体験入学での出来事などを共有、子どもと一緒に就学への期待を高めてもらう。 ● 保護者説明会などを通して、保護者に就学への不安や悩みの解消に努める。
幼稚園・保育所など	● 体験入学での工夫点や反省点などを幼稚園・保育所間で共有するなど、振り返る機会づくりに努める。 ● 保護者説明会などを通して、保護者同士がふれあえ、情報交換や相談しあえる機会づくりに努める。 ● 体験入学を通して、小学校の施設や生活の様子を知り、入学への期待が高まるようにする。
小学校	● 体験入学などの交流を通して小学校生活のイメージをもたせ、期待が膨らむようにする。 ● 給食体験を通して小学校給食の内容や味を知り、安心して食べられるようにする。

事例①

大切にしたい視点

自分も相手も好きになろう！

きいて話して友だちをつくらう！

学びを楽しもう！

お話づくり・劇遊び

共通のイメージをもち、それぞれの場面でどんな表現をするかをグループにわかれて話しあい、世界でたった一つのお話をつくっている喜びを感じあう。言葉や体を使って自由に表現しあう。

ねらい

一人ひとりが自分の良さやもち味を発揮し、友だちと協力して遊びを進める。友だちと共通のイメージをもちながら、一緒に考え工夫したり、自己発揮したりしながらやり遂げた充実感を味わう。

子どもの姿・活動内容

- 絵本を見ながらイメージを膨らませ、自分たちならどんなお話にしたいかを考え、どんなものが必要かなどを考える。

- お話の世界の場面で、「なりたい」「やってみたい」と思う場面で集まり、グループをつくる。

ポイント①

- それぞれの場面グループで言ってみようことや、やってみたいことを話しあう。友だちの考えを受け入れたり、自分の考えを相手に伝えるように話したりする。

- 各グループの考えた場面で実際に遊んでみる。

ポイント②

- 友だちの考えたお話の場面ではワクワクしている姿が見られる。

ポイント③

- 遊んでみてどうだったか話しあう。
(良かったところ、悪かったところなど)



- グループの友だち同士のつながりが強くなっている。
- 友だちと思いを伝えあうことを存分に楽しむ姿が見られる。

保育者のかかわり

- 共通のイメージをもってお話遊びができるように、子どもたちの興味・関心のある絵本や教材を準備し、導入する。
- 子どもたちのイメージが膨らみやすいように、さまざまな素材や材料の準備をしておく。
- お話のグループぎめは、なるべく子どもたちの自主性に任せる。
- 人数が少なくて困っているグループには保育者も一緒に入り、周りの友だちにも知らせるようにする。
- 友だちと一緒にイメージを膨らませたり、考えを伝えあう姿を見守り、行き詰った時にはヒントとなるような言葉をかける。
- 自分の気持ちを出しにくい子どもには、保育者も一緒に本人の気持ちに寄り添いながら、自分の言葉でグループの友だちに伝えられるように援助する。
- 場面にあった音響を準備するなど、雰囲気が出せるように援助する。
- 友だちの考えた場面の世界に入り込み、表現を楽しんでいる姿を見守り、認め、励まししながら、意欲へとつなげる。
- 友だちの意見も大切に、次への話しあいにつながるように言葉をかける。

- 自分たちで考え話しあいながら、世界でたった一つのお話ができている喜びを保育者も一緒に共感する。
- イメージをもちにくい子どもには、保育者も一緒にお話の世界に入り込む。

準備

実践

振り返り

ポイント①

- お話の場面でグループをつくる時には、子どもたちの自主性に任せることで、コミュニケーション能力を高めることにつながり、就学に向けて新しい友だちにも自らかかわる力が身につく。
- 人数が少ないグループができたとしても保育者が初めからかわり、解決するのではなく、自分たちがどうしたいかを考えさせ、周りの友だちに困っていることを知らせられるように援助する。
- 自分でなりたいグループが見つけない子どもには、本人の気持ちをききながら、自分の力で行動できるように支援する。

ポイント②

- 自分の思いを一生懸命相手に伝えようとする姿や、友だちの話を一生懸命きいている姿を見守り、保育者とともに共感することで自信や意欲につながっている。
- 自分の思いを押し通そうとトラブルになることもあるが、相手の考えもきき入れながら、自分の気持ちにも折りあいをつけられるようになっている姿が見られる。
- 他のグループがどんな楽しいことを考えているのか、気になる様子も見られ、自分たちも楽しい場面を考えようとはりきる姿も見られる。

ポイント③

- 共通のイメージをもちながら、それぞれの場面で考えた遊びのルールをわかりやすく相手に伝えられるか、自分の言葉で相手に伝える大切さを学ばせる。
- 友だちの良かったところや頑張っているところを気づきあったり、言葉にして伝えることで気持ちが伝わりあったり、互いの心が温かくなることを感じあう。
- 人の話を最後まできくことの大切さを考える機会となった。

評価・反省

イメージをもちにくい子どもには絵本を用意したが、それが子どものイメージの広がりを防いでもったかもしれない。

体での表現が多くなり相手に伝わりにくい場面では、保育者がその時々に応じた言葉を投げかけることでヒントとなり、言葉での表現も楽しむようになった。

園(所)生活最後のクラスで一つの目的に向かって取り組む遊びだったため、友だちの意見を尊重し、みんなで良いものをつくりあげようとする雰囲気生まれた。

見せたいという気持ちを大切にしながら、そのためにはどうしたらいいかを考えさせる機会となり、お客さんに見せるためのルールが生まれた。

コメント

お話遊びを通してクラスが一つになりたいたいという気持ちを子どもたちの行動や言葉から感じとることができた。子どもたちは満足感・達成感を味わうとともに就学への意欲にもつながったように感じる。

友だちと一緒に楽しいものをつくりたいという気持ちが、こんなにも自分の気持ちに折りあいをつけながら、相手の考えを受け入れられる自分になれるんだということを改めて感じた。また、このような経験が、就学に向けて自信となり希望をもって1年生を迎える気持ちになったと思われる。

保護者にとっても、成長したわが子の姿を見ることで、就学への不安が少しでも減ったのではないだろうか。

事例②

□文字の言葉集めをしよう

1～6文字の「言葉集め」をする。サイコロを使って、でた目の数の言葉をかいて、「ことばすごろく遊び」をする。

ねらい

数や文字に興味・関心をもちながら、それらを用いて友だちと遊ぶ楽しさを味わう。友だちとかかわりながら、遊びを発展させる。

大切にしたい視点

自分も相手も好きになろう！

自分で元気な生活をつくらう！

きいて話して友だちをつくらう！

学びを楽しもう！

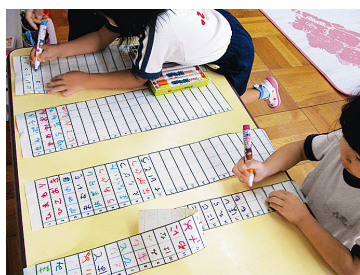
子どもの姿・活動内容

保育者のかかわり

準備

- 自分の名前は、何文字かを知る。
- 3文字の言葉を考える。
- 指を使って「□文字」の言葉を集める。
- 「スリッパ」「ばった」「ジュース」のように促音や拗音、長音などをかくと、「スリパ」「ばた」「ジュス」になることがある。
- 同じ言葉でも違う意味のものがあることに気づく。(例:「くも＝雲、蜘蛛」、「はな＝花、鼻」など)
- 具体的にかくことで、後ろから読めば違う言葉になることに気づく。(例:「いか」⇄「かい」、「かお」⇄「おか」など)

ポイント②

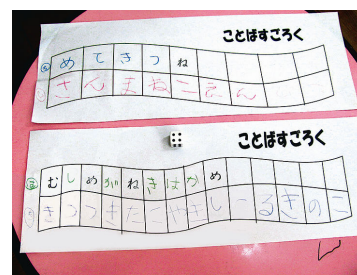


- かけない文字がある時は、「ひらがなスタンプ」を使う。
- 友だちと一緒にサイコロを使って「ことばすごろく」をする。
- ひとりでは遊べない遊びなので、友だちを誘いあって遊んでいる。
- 6文字以上の言葉を見つけた時には、本人も驚きながら喜ぶ姿があり、遊びの中の学びを楽しむことができた。

実践

- 多く出ると予想される「3文字」の言葉集めから取り組む。
- かき込める用紙を準備する。
- 2文字→4文字→1文字→5文字→6文字の順に「言葉集め」をする。
- クラス全体で活動した後は、思いついた時にかき込めるような環境を整える。
- 促音や拗音、長音などで間違えている時は、正しく伝える。
- 子どもたちの気づきに共感し、周りの友だちにも伝えられる場をつくる。
- 子どもたちの自主的な発見に任せ、ヒントなどは出さないようにする。後の5・6文字を発見した時の感動が大きくなる。

ポイント①



ポイント③

- 「ことばすごろく」の用紙を準備する。
- ルールを伝え、子どもたち自身で「ことばすごろく」の遊びを進めていけるようにする。
- 5・6文字になると、なかなか出てこない時があった。そこで、ヒントを出したり教室の環境で探せるようにしてみたりするなど、自分たちで言葉を集められる(見つけられる)ように援助する。

振り返り

ポイント①

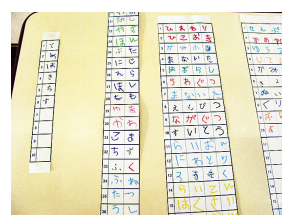
- クラス全体の遊びとして終わらせるのではなく、子ども一人ひとりが思いついた時に
かき込めるようにすることで、自主的・意欲的な言葉集めにつながる。
- クラス全体の共有物とすることで、子どもたちの競いあいや数を多く出すという共通
した目標に向かわせる。

ポイント②

- 「はんたいホラネ！？」を歌う、「さかさのこもりくん」シリーズを読む、「反対ことばカ
ード」で遊ぶことで、知らなかった反対言葉を知ったり、さまざまな言葉遊びを通し
て、言葉の楽しさやおもしろさを伝えたりする。
- この活動を活かして、子どもたちが見つけた反対言葉などを劇遊びの中でも取り入
れ、遊びをさらに発展させる。

ポイント③

- 写真のような大きさだと、1対1や少人数での活動に有効だった。初級版として枠が
少なめのものと中級版として枠を少し多くしたものを用意しておき、途中であきらめ
ないように工夫した。
- 大きい模造紙で用紙をつくと、グループ対抗にして
4～5人の友だちと考えながら遊ぶこともできる。その
際は、大きなサイコロを使う。
- ただ集めるだけの活動に終わるのではなく、「すごろく
遊び」として発展させることで、より楽しみ、考える(学
ぶ)ことにもつながった。



評価・反省

数に対しても「90個も集められたな！」
と視覚的にわかるようにすることで、達成
感も味わうことができた。

遊びを通して、言葉の習得や意味の理
解など、学びにつながる取組みでもあると
感じた。

コメント

クラス全体で遊んだことが、その後の子
どもの自主的な遊びにつながったことが
良かった。

子どもに前年度のクラスでの数などを
伝えるなどすれば、子どもたちにとって
わかりやすい目標ができ、新たな楽しみ
や頑張りにつながると思う。

5歳児 3月

テーマ

もうすぐ1年生！

就学に向けての期待や不安をもちながらも、一人ひとりが自信をもって入学を楽しみにする。



ねらい

- 就学への期待が高まり、生活や遊びに意欲的に取り組む。
- 就学に向けて、集団生活に必要なきまりを守る。
- 生活に見通しをもって行動し、健康的な生活を進んでしようとする。
- 自分の思いを言葉で表現する。

大切にしたい視点

自分も相手も
好きになろう！

大切に
する力

- 当番活動や年少児のお世話をすることを通して、自分が役に立っている喜びを感じる。
- 生活をともにしてきた友だちや年下の友だち、身近な人々と心を通わせ、成長した喜びを味わい、感謝の気持ちをもつ。
- 周りの人に感謝をしながら、自分の成長を感じたり、自信をもったりする。
- 友だちを思いやり、互いに認め合いながら生活する。

きいて話して
友だちをつくらう！

つながる
力

- グループや友だち同士で話しあいながら、遊びや活動を進める。
- 相手の気持ちを考えながら話をしたり、お互いの気持ちに折り合いをつけながら遊びを進める。
- 小学校生活のイメージを友だちに話したり、きいたりして期待感を高める。
- 小学校入学への期待をもちながら、友だちと一緒に充実した園生活を過ごす。

自分で元気な
生活をつくらう！

元気に生活
する力

- 自分がこれまでに経験してきたことに対する自信をもち、自分の力で行動しようとする。
- 小学校生活をイメージし、時間を意識しながら見通しをもって、生活をする。
- 体調や気温に応じて、自分で衣服を脱いだり着たりしながら調整する。
- 食材を育てている人や調理してくれる人に感謝の気持ちをもち、友だちと一緒に楽しんで食事をする。

学びを
楽しもう！

考えてチャレンジ
する力

- 遊びや生活の中で、数や量、図形、文字、ものの性質への興味・関心が高まる。
- 文字や数字を使って、遊びを工夫したり、発展させたりする。
- 小学校で学ぶ新たな言葉や文字、数を使った学習に対して、楽しみと期待をもつ。
- 自分なりのめあてをもって活動に取り組み、最後までやり遂げた達成感を味わい、自信をもつ。

小学校に向けて

- 「学校ごっこ」をして遊び、小学校生活のイメージをもつ。
- 小学校までの通学路を知り、理解してスムーズに登園(所)できるようになる。

保育者の援助

【ポイント1】

**自分や友だちの成長を
認めあえる機会をもつ**

- 自分の力を十分に発揮し、互いの良さに気づき協力しあいながら遊びや生活を進め、充実感を味わえるようにする。
- 自分がこれまでに経験したことを振り返り、就学に向けて自信をもたせる。

【ポイント2】

**感謝の気持ちを周りの人へ
伝えあえるようにする**

- 自分がこれまでにかかわってきた人への感謝の気持ちをもたせる。
- 子どもの話したい、表現したい、伝えたいという気持ちを受けとめ、言葉で相手に伝える楽しさを知らせる。

【ポイント3】

**就学に期待をもちながら生活に
見通しをもって行動できるようにする**

- 時間を意識した生活を進め、就学に向けて気持ちを高めさせる。
- 就学がイメージできるように、小学校生活での授業環境や年間行事などを伝えとともに、就学への期待感を高める。

環境づくり

成長記録	お別れ会でのふれあい	時間を意識できる環境づくり
成長の記録を通して体だけでなく、心も大きくなった喜びを感じられるようにする。	お別れ会を通して、園生活での自分たちの成長を感じさせる。園生活の最後の行事として、就学への意識を高められるようにする。	見通しをもって、自分たちで生活を進めていけるように、時計・カレンダー・予定表を用意する。

接続期の工夫

家庭・地域	●就学への不安が少なくなるように、幼稚園・保育所での子どもの成長を伝える。 ●家庭でも自分のことは自分でできるように進めてもらう。 ●早寝・早起き・朝ごはんなど、生活習慣を整える大切さを保護者に伝える。 ●徒歩通学の練習を家庭でするように促す。
幼稚園・保育所など	●子ども同士の交流活動などを通して、就学した際にも新たな友だちをつくっていけるようにする。 ●就学に向けての期待や不安を十分に受けとめ、一人ひとりが自信をもって入学を楽しみに待つようにする。
小学校	●就学する小学校へ引き継ぎを行う。 ●保育者と教師が子どもの特徴を共有できるように、情報交換などを行う機会づくりに努める。 ●教育相談日などを設け、保護者の育児教育の不安を受けとめ、小学校入学への期待につなげるようにする。

事例①

大切にしたい視点

自分も相手も好きになろう！

自分で元気な生活をつくろう！

学びを楽しもう！

小学生体験

朝の会の「おやすみ調べ」で、小学校で使う号令「起立」「礼」「着席」を使い、就学を意識し、活動の中に楽しみながら取り入れる。また、クラスの子どもたちへ連絡事項を伝える。

ねらい

小学校での号令（起立、礼、着席など）を事前に体験し、小学生になっても自信をもって取り組めるようになる。また、きいてきた「お知らせ」をみんなの前で正確に伝えられるようになる。

子どもの姿・活動内容

保育者のかかわり

準備

- 小学校への体験入学などの機会を通して、小学校での号令の種類や内容について理解する。

ポイント
①

- イスに座って朝の会をする。
- 「起立」「礼」「着席」の合図で、朝のあいさつをする。

ポイント
②



実践

- 当番がおやすみ調べをし、職員室におやすみ調べカードをもっていく。
- 入室時に「失礼します」と言って入り、職員室の教師にクラスの出席状況を伝える。
- 係の教師からその日の「お知らせ」をきいて教室に戻る。
- 教室に戻り、クラスの子どもたちに「お知らせ」を伝える。

ポイント
③

- 次の日の当番を伝え、「おやすみ調べ当番」を終了する。

- 事前に年長児の担任で、取り入れる時期や方法を確認して行うようにする。
- 朝の会を小学校のように、イスを並べた教室のような環境をつくる。
- イスに正しい姿勢で座ることを伝え、子どもたちに小学校の号令として意識させながら取り組めるようにする。
- 「起立」「礼」「着席」という言葉の意味をあらかじめ伝え、楽しんで行えるようにする。
- 子どもたちの様子を見ながら、「かっこいいね」「すごいね」と言葉をかけ、小学校への期待が膨らむようにする。
- その日に、子どもたちに伝えたいことを「お知らせ」という形で、全体に伝えるようにする。（例：廊下を走らないようにする、あいさつをしっかりとするなど）
- きいてきた「お知らせ」を、クラスの友だちに正しく伝えられるようにし、みんなの前でもしっかりと話できた時は、褒めて励ますようにする。



- 一人ずつ順番に行うので、あらかじめ前日に次の当番の人の名前を発表し、当番にあたった人は、自覚をもって取り組めるようにする。

振り返り

ポイント①

- 小学校では、一人ずつの机とイスがあり、そこに座って勉強したり給食を食べたりすることを伝え、日々の生活の中にもイスと机を使った活動を多く取り入れるようにする。
- 正しい姿勢で座ることが、学習意欲につながることから、子どもたちが日頃から正しい姿勢で座れるように言葉をかけ、保護者にも機会をとらえて正しい姿勢を意識してもらうように伝えた。

ポイント②

- 「ねえ、ねえ、知ってる？ 小学校には、カッコいい言葉があるよ。それはね・・・」と楽しみになるような言葉をかけることで、子どもたちがより集中して話をきく姿がみられた。
- 次の日からも子どもたちの方から「小学校の言葉でやって」という意見もきかれ、あこがれの気持ちや期待感が膨らんでいる様子も見られた。

ポイント③

- 保育者からきいた「お知らせ」を伝える際に、緊張や恥ずかしさから発表することが難しい子どももいたが、ゆっくりと周りの友だちが話し出すまで待つ姿勢があり、人の話をきく姿勢にもつながっているように感じられた。
- 頑張って言えたことで、自信になったり、周りの友だちからも認められたりする機会づくりにもつながった。

評価・反省

小学校の言葉を使ってからは、家庭でも保護者に自慢して話したり、自分たちの遊びの中でも使ったりしていることから、小学校へつながる言葉・行動だと感じた。

また、小学校での号令など、小学校で使う言葉へのあこがれが、就学への期待の膨らみにもつながっていると考えられる。

このような取組みも含めて、まだまだ小学校へ向けて情報発信したり提供を受けたりする必要があると思う。

コメント

小学校で使う言葉の中には、子どもたちにとって初めてきく言葉がある。そのことを保育者や教師も共通理解していないと子どもが戸惑うことになると思うため、日々の保育の中や授業の中で興味や関心がもてるように取り入れないといけないと感じている。

それには、保育者自身の心構えが大切になってくると思うので、これからも連携しながら段差をなくしていかないといけないと感じている。

事例②

大切にしたい視点

自分も相手も好きになろう！

自分で元気な生活をつくろう！

きいて話して友だちをつくろう！

ドッジボール交流とトイレ体験

2グループにわかれて年長児対1年生でドッジボールを行う。2回戦目、1年生は左手で投げで試合を行うなどをし、対等に遊びを展開させる。トイレの使用では、女兒は扉を閉めて排泄を行う練習をする。

ねらい

小学生とコミュニケーションをとり、優しくされることを知り、就学に向けての安心感や期待を高める。トイレに慣れるなど、スムーズに小学校生活を送ることができるようになる。

子どもの姿・活動内容

保育者のかかわり

ポイント
①

- ドッジボールのルールについての話をきき、理解する。
- 小学校でスムーズに行動できるよう、上靴の脱ぎ履きの取組みをする。

<ドッジボール>

- 元気良くあいさつを交わし、お互いを意識する。
- ルールを守り楽しんで積極的に参加し、就学に期待をもつ。

ポイント
②



<上靴>

- 学校内の移動の中で、スムーズに上靴の脱ぎ履きを行う。

ポイント
③

<排泄>

- スリッパに履きかえる、排泄を行う、手を洗うといった流れが身につき、ひとりで行える。
- 女兒(男児は便の際)扉を閉めて排泄を行う。

- 小学生との交流でお互いをより知ることができ、就学への期待がさらに高まる。
- 感想をきく中で、他児の気持ちも知る。

- ルールをなるべく園(所)側にあわせ、混乱なくドッジボールを行えるようにする。
- 立ったままでの靴の脱ぎ履きの意識づけを行う。

- 顔をあわせ、笑顔であいさつを交わす時間をつくり、安心感をもって参加することができるようにする。
- 全員が楽しんで参加できるように、柔らかいボールを使用する。
- きめることがある場合は、子どもの自主性に任せて進める。

- 実際に1年生がモデルとなってもらい、見て真似て覚えさせる。
- 上靴の脱ぎ履きができない子どもには、1年生が手助けをしてあげるように促す。

- 3月までの小学校体験で繰り返し取り組んでできているため、声かけや見守りを減らし、ひとりで行えるように進める。
- 外で見守り、いつでも手助けができるよう、また個人的に配慮が必要な場合は配慮する。
- 子どもたちが自分の思いを言葉に出して伝えられるような雰囲気づくりや言葉がけを行う。
- 感想をきき、満足度を把握するとともに、共感する。

準備

実践

振り返り

ポイント①

- スムーズに遊びに取りかかれるように園側にルールをあわせることは多々あるが、小学校のルールも取り入れ、小学生としての力や応用力を身につけることも大切にする。
- 小学生がルールを忘れるなど、場合によっては園(所)の子どもが小学生にルールを教えてあげたりする。

ポイント②

- 積極的に参加することで自信へとつなげ、交流会を楽しむことで楽しい小学校生活に期待をもてるようにする。
- 楽しさの中にもルールを守る大切さがあることを知らせる。

ポイント③

- 小学校入学の際、排泄面で不安となる子どもが多くなるため、体験を通じ、就学までに小学校のトイレでの排泄をひとりで行えるようになり、不安を少しでも取りのぞき、スムーズに学校生活を送れるよう回数を重ねる。
- 小学校で体験する新たな生活習慣を知り、慣れるようにする。

評価・反省

コミュニケーションをはかることに関して、ドッジボール交流は取り組みやすく、笑顔で参加する子どもたちの姿が多く見られた。

園(所)の子ども対小学生の試合だけではなく、園(所)の子どもと小学生の混合のグループでの試合の場面をつくると、よりコミュニケーションがはかれ、関係を深めることができたのではないと思う。

コメント

全員が知っているドッジボールだからこそ、すぐに取り組むことができ、子ども同士のコミュニケーションがはかりやすく、積極的に取り組むことができたと思う。このような交流を増やすことが重要である。

トイレ体験は回数を重ねることでトイレへの不安や使い方にも慣れることから、小学校を訪れるごとにトイレ体験をさせていただいていることは有効である。